

H30 妙高西条農園たより

NO. 3

平成30年6月23日 (6月号)

今年は田植え後の天候も不順で、暑い日は25～30°の夏日となったり、また14～15°前後の寒い日が続きたりしていたことから農作物の生育があまりよくない状況が続いています。それでも当農園のコシヒカリについては、田植えが早かった事もあり6月17日時点での定点観測箇所の稲丈が約30cm、株数も20～25本ほどになったことから、圃場の水を払い中干し、溝きり作業を行いました。

中干しの効果については、以前にも何回か記述しましたが、無効分けつの発生を抑え、適正な穂数を確保し、有効茎の健全化を図ることが重要な目的です。

溝きりについては、圃場全体に3～5m間隔で深さ10～15cm溝を切り排水口につなげることで排水や、かん水が容易になり、その後の水田管理がやりやすくなります。

これらを適正に行うことで、根張りがよくなり、収穫前の倒伏を防止し、圃場の地耐力が向上しコンバインによる収穫作業が効率よく出来るようになります。

溝きり作業実施中



溝きり作業終了後の状況



昨年購入した乗用溝切り機



田植え終了後、すぐに苗箱の洗浄作業や、苗作りに使用したビニールハウスの撤去等の後片付け作業を行わなければならなかったのですが、各種のイベントや腰痛の関係から遅れていましたが、見かねた孫たちが6月に入ってから、行ってくれましたので、助かりました。

孫たちが苗箱の洗浄を実行中



今年も定点観測を行います



定点観測箇所の分けつ状況



天候は不順でも畔道等の雑草は旺盛に伸びる事から今年も3回目の畔草刈りを実施しました。当農園の圃場は平坦地と山間部の接点にあることから、圃場間の高低差があるため畔の法面積が大きく、刈り払い機を使用して畔草刈りを行うのですが、なかなかの重労働です。

約5mほどある畔の草刈り状況



小さな畔も自走機で刈り払い



今年購入した背負い式刈り払い機



我が家の物置に数十年ぶりにツバメが巣を作り6月20日頃5～6羽のヒナがかえりました。現在親ツバメがセッセとヒナに餌を運んでいます。全てのヒナが無事巣立ってほしいと祈っています。

ツバメのヒナ



発行者：〒944-0023 新潟県妙高市西条755
妙高西条農園長 池田博子
☎ 0255-72-3497 fax 0255-72-2908
URL : <http://www.kanta.jp> E-mail : ikedata@kanta.jp